

公共建築月間イベント

施設見学会 ～津波被災施設の再建～

東北地方整備局 営繕部

「公共建築の日」及び「公共建築月間」のイベントとして、広く一般の方々にも関心を持っていただきながら、より一層生活に密着したより良い公共建築を目指すという趣旨で、11月9日（木）に平成29年度公共建築月間イベント施設見学会（以下、「施設見学会」という。）を開催し、公共建築等に興味を持つ学生など39名の参加がありました。

これは、主催：「公共建築の日」及び「公共建築月間」関連イベント実行委員会、共催：「公共建築の日」及び「公共建築月間」東北地方協力支援会議により開催したものです。

施設見学会は、“津波被災施設の再建”と題し、石巻市内の石巻港湾合同庁舎（国施設）・石巻合同庁舎（宮城県施設）を中心に施設整備にかかる事業紹介・現地見学を行いました。参考見学施設の道の駅「上品の郷」を含めた3施設を訪れることで、多くの人が利用する公共建築物として、各施設における設計方針や施設整備の取り組みなどに触れる機会を設けました。



〔石巻港湾合同庁舎（国施設）〕

●石巻港湾合同庁舎（平成26年度完成）

石巻市中島町にあった石巻港湾合同庁舎は、石巻海上保安署等複数の国の機関が入居していましたが、東日本大震災の津波により構造体や設備に甚大な被害を受け、庁舎の使用を継続することが不可能となりました。これを受け、災害応急対策活動拠点としての耐震安全性と津波防災機能を備えた国の合同庁舎として、東北地方整備局営繕部が同一敷地に復旧整備を行いました。また、石巻市からの要請を受け、市の防災備蓄倉庫を最上階に合築するとともに津波避難ビルとしての機能を備えた庁舎として整備しています。なお、津波発生時に周辺住民を含めた多くの人命を守る施設として、災害時の使用にあたって石巻市と第二管区海上保安本部の間で平成26年6月に協定を締結したことにより、石巻市から津波避難ビルに指定されています。

現地見学では、津波に対応した整備方針として設備機器類の配置や津波による衝撃への対策について施設を巡りながら確認いただくとともに、合同庁舎に合築した石巻市防災備蓄倉庫及び避難スペースがある屋上や地上から屋上までの避難経路となる屋外階段の通行も体験しました。



〔石巻港湾合同庁舎（国施設） 見学状況（左：外壁・浸水高さ表示、中：屋上避難スペース、右：機械室）〕

●石巻合同庁舎（現在工事中・平成29年度完成予定）

石巻市東中里地区にある石巻合同庁舎は、宮城県の出先機関が入居する県の施設で、東日本大震災の地震と津波により甚大な被害を受けたため、現在は仮復旧工事を行い継続使用しています。今後の津波被害の影響・交通利便性・整備スケジュール等を検討した結果、災害に強く広域防災拠点機能を備え、多様な行政ニーズに対応でき、利便性が高く、地球環境・周辺環境にも配慮した庁舎として、同市蛇田地区へ移転新築することとなりました。

石巻合同庁舎の工事現場見学では、現敷地を選択した理由や、津波や地震など災害に対する取り組みについて、工事施工中の現場を巡りながら確認しました。



〔石巻合同庁舎(宮城県施設) 見学状況 (左：屋上、中：事務室、右：電気室)〕

●道の駅「上品の郷」（参考見学施設）

石巻市（旧河北町）の道の駅「上品の郷」は、地域振興・人々の交流の拠点として平成16年度に開駅した、温泉保養施設・農産物直売所・レストランや道路情報施設などが整備された施設です。現地では参加者自由行動により、東日本大震災時には災害対応の中継地点として利用されていたことや、農産物直売所などによる日頃からの地域とのつながりを感じてもらいました。



〔道の駅 上品の郷 見学状況〕

参加者からのアンケート結果では、8割以上の方から「公共建築に関心を持った」とご回答があり公共建築をより身近に感じてもらうことができました。さらに、「震災の教訓をふまえて建物が設計されている」「ハード面での津波に対する対策や意識が強くなっていると感じた」「東日本大震災時の被害状況と併せて紹介があったので、大変納得がいった」等の意見もいただき、大変好評でした。